

研究活動報告

第13回日中韓少子高齢化セミナー

2025年11月6日(木)から7日(金)にかけて、中国・杭州市において第13回日中韓少子高齢化セミナー(The 13th Population Policy Forum)が開催された。本セミナーは、日中韓三か国が少子高齢化政策に関する経験と知見を共有することを目的として2010年に第1回が開催され、今回が13回目となる。セミナーは各国が持ち回りで開催しており、日本側ではこども家庭庁および厚生労働省が所管している。今回は「晩婚化と未婚化」、「認知症予防と地域介入」がテーマとして掲げられ、三か国から政策報告および学術報告が行われた。主催は中国人口発展研究センター(CPDRC)、運営は杭州国際都市学研究中心(杭州師範大学内)であった。

当研究所からは、人口動向研究部長の岩澤美帆および筆者が出席し、筆者がセッション1「晩婚化と未婚化」において日本の未婚化について報告を行った。同セッションでは、韓国の金恩貞氏(韓国保健社会研究院)からは、良質な雇用の不足や住宅価格の高騰が未婚化につながっているとの報告があった。中国の齊嘉楠氏・姜玉氏(中国人口発展研究センター)からは、価値観の多様化に対応し、結婚の管理から優れたサービス提供への転換を図るといった趣旨の報告があった。

以下に11月6日(木)のプログラムを記す。演題および所属の日本語表記は、主催者による翻訳である。

1. 開会式 【司会：賀丹(中国人口発展研究センター)】

- ・王培安(健康と人口発展戦略研究院)
- ・李熙燮(中日韓協力秘書処)

2. 基調講演 【司会：馬愛麗(中国人口発展研究センター)】

- ・柳清海(中国国家衛生健康委員会)「人口少子化に積極的に対応する中国の戦略と政策」
- ・齊新傑(中国国家衛生健康委員会)「高齢期痴呆対策：政策と実践」
- ・水田功(こども家庭庁) ※題はなく、日本の少子化および高齢化の状況と政策対応について発表がなされた。
- ・金尚熙(韓国保健福祉部)「晩婚及び非婚の現状：その原因と政策対応」
- ・張洪俊(韓国保健福祉部)「韓国の認知症管理施策と今後の課題」

3. セッション1「晩婚化と未婚化」 【司会：中原茂仁(こども家庭庁)】

- ・鈴木貴士・岩澤美帆(国立社会保障・人口問題研究所)「日本における未婚化の進展とその説明：経済、交際、個人特性からの分析」
- ・金恩貞(韓国保健社会研究院)「晩婚・非婚の原因や今後の政策の方向性」
- ・齊嘉楠・姜玉(中国人口発展研究センター)「中国女性の婚姻延期の原因に対する分析」

4. セッション2「認知症予防と地域介入」 【司会：張洪俊(韓国保健福祉部)】

- ・呉武炅(韓国国立認知症院)「韓国の認知症施策及び認知症安心センター・中央認知症センターの紹介」

- ・賀鵬飛（中国人口発展研究センター）「AI人工知能等の新技術が高齢期認知症の予防と治療における模索と活用」
- ・林俊宏（厚生労働省）「日本における認知症予防と地域共生の取り組み」

5. 閉会式 【司会：張翠玲（中国人口発展研究センター）】

- ・金尚熙（韓国保健福祉部）
- ・馬愛麗（中国人口発展研究センター）

翌11月7日（金）には、杭州師範大学付属幼稚園および杭州良渚随園養老院の視察が行われた。また、セミナー前日の11月5日（水）には、日韓両首脳の合意に基づく「日本・韓国少子化および高齢化に関する二国間会談（局長級）」（厚生労働省・こども家庭庁、韓国保健福祉部）が行われ、「未婚化・晩婚化」、「認知症施策」、「エイジテック産業の活性化」、「研究機関の協力」をテーマに意見交換が行われた。会談では、岩澤部長が国立社会保障・人口問題研究所と韓国保健社会研究院（KIHASA）との研究連携の状況について説明した。

今回の第14回セミナーは2026年に韓国で開催される予定である。

（鈴木貴士 記）

ASEAN-UNFPA 人口変動フォーラム（マレーシア・クアラルンプール）

UNFPA アジア太平洋地域事務所、ASEAN およびマレーシア政府により、2025年11月10日（月）～11日（火）、マレーシア・クアラルンプール ワールドトレードセンターにて「ASEAN-UNFPA 人口変動フォーラム」が開催された。参加者は ASEAN 各国の関係省庁の担当者、専門家、ユースバルジから高齢化への変化、健康な高齢化に資する政策イノベーション、少子化、国際人口移動といったテーマでセッションが設けられ、ASEAN 各国の情報が共有され、議論が行われた。筆者は「日本における人口移動と開発」というタイトルのテーマ別基調講演を行った。近年の外国人受け入れ・社会統合政策のみならず、1970年代からの日本の過疎化対策、2014年からの地方創生政策についての関心も高いようであった。

（林 玲子 記）

ヘルプエイジ アジア太平洋高齢者会議準備会合（タイ・チェンマイ）

ヘルプエイジ・インターナショナルは、人口高齢化に関する国際的な NGO であり、アジア太平洋地域ではおおむね2年に1度、アジア各地で国際会議を開催している。次回会議に向けた準備会合が、2025年11月12日（水）～13日（木）に、ヘルプエイジのアジア太平洋事務局があるタイ・チェンマイで開催された。会議のテーマについて、シルバーエコノミー、AI/DX の活用、介護サービスの提供、世代間交流を核に議論が進められた。

アクティブエイジングに資する施策に付け加え、インドやベトナムで終活、つまり終末期のサービスに対するニーズが高いことが話題になった。特に、子どもが外国で就業・定住している場合に、その親の介護や死亡時の手続きなどを依頼されることが多いとのことであった。日本では火葬後分骨もできること、生前に墓の準備をすることなどを話すと、非常に驚かれた。人口高齢化とともに死亡も増えるが、「よい死」を迎えるための各国のしくみに関する情報交流も必要であると感じられた。